



早乙女

MESU-DARU
早乙女けんきゆう所

成人向同人誌

牝 樽

03	目次
04 ~ 18	いそは臭
19 ~ 29	HOLON TANK
30	奥付

早乙女けんきゆう所

い
ろ
は
臭



成年向
同人誌

い
ろ
は
臭

いろは!
暫く振りに帰ると直ぐ旦那さまが息を切らして戸を開けた。

心の準備が出来てなかったので慌てつつも
帰宅のご挨拶をしなくてはなりません。

…だ…旦那さま…いろは、ただいま戻らせて頂きました。

暫く振りの旦那さまの声がかく
私の耳に響きます。
旅の間用を足す以外ずーと指も
触れないで我慢していた色々な
事を思い出してつい息が荒ん
てしまいます。

はしたなくて恥ずかしいのですが、
旦那さまははまだ気付かれない
客です。

は、

失礼なのですが旅から
帰った時は旦那さまには
お尻を向けてご挨拶を
する決まりになっているのです。

旅の間、旦那さま以外の殿方に心を
許さない証に着替える前の下穿さ
と着物を旦那さまが吟味して下さる事
になっているからです。

ニギ

は、

ニギ

…旦那さま…どう…か…
いろはのはしたない所をお調べくださいませ…

ニギ

ニギ

旦那さまのお顔がお尻の前に近づくのが感じられます。

お尻に顔を埋めた旦那さまは匂いの強さや汚れ方を細かく仰って行きます。
指でなぞりながら、時には舌を這わされて汚れ具合を聞かされてるうちに
とろとろと淫汁が溢れて更に匂いが濃くなってしまおうです。

旦那さまと私の息遣いと汗、私のお尻の間から立ち上る淫汁と汚れの空気で
狭い部屋がすっかり満たされて行きます…

一通りご挨拶が終わった後はすっかひしよんに濡れてしまった下着を外して頂きます。

かなり長い間取り替えてなかったせいで、今のお汁のせいで部分的に張り付いてしまっているようです。

びり…びり…。旦那さまがお楽しみになりながら少しづつ剥がして行く度に更に濃い匂いが部屋の中に流れ出します。

すっかひ刺がされて見えてる筈の淫装はまだ可愛がって頂けません。先ずは帰る前には溜めて置きましょうと言われてた肛門の様子をご覧ください。

淫汁を塗らこんだ旦那さまの指先がいろはの肛門にゆべりと埋まって行き、中をぐぐりとかき回して行きます。気持ちよくてつい声が出てしまうのですが、旦那さまの指が汚れてしまうのが気になって複雑な気分です。

旦那さまにもっと尻の力を抜けと言われながらやっと思を抜かれました。

もっと旦那さまを感じたいと思いつい力が入ってしまいます。

いろはの汚れを見て頂いた次は私が旦那さまを綺麗にして差し上げる番です。下着を下ろして差し上げ、お許しが出た後に旦那さまの下着に顔を埋めて思いっきり匂いを吸い込みます。特に今いろはを弄って頂いた時に濡れてくださった部分暖かくて匂いも濃くて頭がぼんやりしてしまいます。お尻の当たるあたりに舌を這わせると、びりびりとした味が感じられて、つい夢中になってしまいました。

いろは、と呼ばれて顔を上げると、鼻先に旦那さまの茎が突き出されています。下着よりもずっと強烈な匂いに呆然となっていると、自然と舌が出てしまいますがまだしゃぶりして良いと言う許可が出てません。

旦那さまは私のうんちの付いた指と茎を一緒に並べられて、どちらがより匂いがきつい？と仰られます。どうお答えしたらお口に入れて下さるのだろう…とその事ばかり考えて、結果じらされてしまいます…

おしゃぶりより先ずはおまかに旦那さまの茎を擦って
差し上げる事になりました。
こういった時の為に旅の間は勿論、普段いゝはは
腋や淫丘の毛を旦那さまの許可なく剃ることはありません。

乳房を寄せて腋を出すと、旦那さまが茎を当てて下さいます。
ジョリジョリと擦り始めると、旦那さまの茎の先が少お顔を覗かせます。
いゝはの腋の匂いと旦那さまの匂いが混ざって、また新しい刺激が鼻を突きます。

匂いが濃くなるにつれて、つい興奮して汗がじわじわと止まらなくなって来ます。
一通り腋で擦ったら次は乳房の一番奥に旦那さまの茎を挟んで蒸らさせて頂きます。
仕上げにいゝはの汗と旦那さまの汗でぬるぬるになった所を擦らせて頂きます。

今回は上手に出来たご褒美に、と腋をしゃぶらせて頂くお許しを買えられた。
二人の匂いの混じった腋をしばらく嗅いだ後に、旦那さまの汚れが残った
腋を味わいます。

旦那さまは乳首を受撫されながら味の感想を聞かれるのですが、二つの
感触に夢中になっている私はつい答えが疎かになってしまいます…

旅の間も我慢し続けた旦那さまの茎をようやくおしゃぶらせて頂く
お許しが頂けました。

直ぐにでもお口に含んで味わいたいのですが、慌てず深呼吸をして、
先ず触って感じてみます。

ひひくと脈打つ茎の感触を確かめながら優しく擦って行きます。はー！

皮を絞って行くと先走りの汁がトトロと溢れてきますので
口付けをする要領でちゅちゅと吸わせて頂きます。

旦那さまの味を早速感じつつ、幸丸の
方も特にやさしく愛撫させて頂きます。

指でなぞりながら、袋の裏の方に舌を
這わせて全体に綺麗にして行きます。

暫く経つとべろんつと旦那さまの茎が剥けました。

ムアと湯気が立ったように見えた茎は
ビクビクと脈打っています。

顔中旦那さまの匂いに犯されつつ
ゆべりと茎に舌を這わせて行きます。

ちろちろと溝の奥から舌先で、丹念に汚れを逃さず穿って
味わって行き、全体を口に含んでしゃぶりを続けます。

愛撫して差し上げると、茎の先が剥けてこられて汚れが見えて来ます。
あまりに濃い匂いについ我慢が出来なくなって、皮の間に鼻をくっつけて
しばらくしてしまいました。
鼻の中には旦那さまの汚れが詰まり、目は先走り汁が垂れてびしょびしょに
濡れてしまっています。
睫毛と唇で大きくなっていく旦那さまの茎を感じつつ匂いを吸い込む私の
息遣いが部屋に響いています。

今度はおしゃぶりが終わってすっか外口口になってしまったいろはの蜜壺の中を旦那さまが見てくださるそうです。勿論異論は無いのですが、今の淫汁の汚れと旅の間の汚れが合わさって旦那さまにご迷惑が掛からないかと心配でした。

旦那さまはすっか外口口を押し開くと、汚れと濡れ具合を仰りながら指で弄っています。思った以上の恥ずかしさですが、言われる度に更に淫汁が溢れて止められません。見かねた旦那さまはお口で淫汁を吸って下さりながら淫核から淫肉の隅々まで舐めて下さいました。

舌を絡めていると旦那さまいろはの味が混ざって、口で交接してる気持ちになります。自分に犯されてるような、旦那さまにして頂いてるような不思議な淫靡な雰囲気におまれつつ唇を重ね続けました。

いろは...

すっか...

くちゅ...

くちゅ...

ちゅ...

いろは...

すっか...

は...

あ...ん...

く...

く...

旦那さまが茎をいろはの淫口にあてがい、ようやく挿れて頂ける事になりました。

茎の先をあてがって貫っただけで、淫肉がひくひくと痙攣するかのようで喜んでるのが自分でも感じられます。

が、あまりの気持ちよさに先が挿入って来た瞬間に溜まっていた…うんちがはじめてしまいました。

必死で我慢するんですが、いろはも旦那さま止まらず腰を動かしてしまいます。

肛門を締めようとする度に腔壁も締めあって更に旦那さまから離れなくなってしまいますし、私もとても途中で離れられません。



何十回目かの突き上げと共に旦那さまの精がいろはの腔内に放たれた瞬間、たまたら絶頂と同時に脱糞してしまいました。

かなり溜まっていたせいでしょうか、プリプリと大きく下品な音を立てながら長く続いて行きます。

旦那さま暫く我慢されてたせいか、長い間射精が続きます。いろはの膣内が旦那さまの子種で満たされていく感覚を感じながらまだ脱糞は止まらず続いていました。

プリプリと言う音からブビッブビッと緩めな音に変わり、こんもりと小さな山が出来た頃に旦那さまも私も満たされて倒れこみました。

暫く倒れこんで余韻に包まれた後お掃除するときに旦那さまに少し叱られました。

あやまりばなしでしたが、旦那さまがほったをつねって遊ばれたので、ヘンな声になってしまいました。

いろははしっかり謝りたかったんですが…

床をお掃除した後は自分で汚してしまった旦那さまを丁寧に紙めて綺麗に行きます。中に残った旦那さまの精も忘れず飲ませて貰います。

旦那さまの提案で山奥の温泉に行く事になりました。
食材探しも兼ねてるので、簡単なお弁当とお酒だけ持って後は身軽で行きます。



たっぷり濡れたら腋に適量を置いて、

ぎゅっと握ります。

軽く形を整えたら出来上がりです。

いかがですか？
いろはの味と愛情が
たっぷり詰まった
特製お結びです♪

後は宿での仕込みを
したら出発です。

旦那さまの好物はいろは味のお結び。作り方は簡単で、おひつの用意が
出来たらまずは蜜壺を思いっきり濡らします。

自分の手が濡れないと意味がないので、この時旦那さまに手伝って頂く
場合でも挿入して貰ったりしてはいけません。
が、乳房やお尻を変換して頂くのは勿論有ります。

目的の温泉は山奥なので、宿と言っても小屋があるだけで今晚はいろはと旦那さまの二人だけのようです。

夕餉は途中で採った食材で作り、温泉に入った後は晩酌のお時間です

旦那さま、お一つ…

人肌がお好きな旦那さまのためにいろはで暖めた燗をお注ぎします。朝仕込んでおいたモロキョウもお出して、ご満足して頂いたようです。

旦那さまがもう一つお好きなのがいろはの乳酒なのだそうです。上と下からたっぷりお酒を頂くと、いろはのお乳もほんのりとお酒っぽくなって普段の味わいと違って酔えるそうなんです。

沢山頂いてパンパンに張ったお乳を吸われているととても気持ちが悪くなって行って、そのまま床に入って朝までぐっすり過ごします。



直ぐに二人目が生まれる予感があった事をお伝えすると、普段お世話に
なっている村のみなさまにも産む所をご覧頂く事になりました。

口枷や縄の具合を念入りに調整されながら準備を整えて頂きます。

既に興奮されてる皆様方はいろはを繋かれた後、男茎であちこちを
愛撫されていきます。

殿方の先走りや汗、濃密な牡茎の匂いで狭い室内が
包まると、それが切っ掛けになって二人目がゆづり
出てきそひになりました。

ヒクヒクと揺がり続ける北ひだの隅々まで何人もの旦那様方に
視察されながら、火山の精を受けたいろはの分身が外に
向かって顔を出します。

最初に精を頂いた旦那様にお仕えする事が使命であり、私達の
何よりの喜びです。
自分の分身が精を浴びるのを見せられながら喜びと快感に沈んで
行きましだ…

二人目、三人目と次々に生まれたいろはの分身に
旦那様方が溜まった精を付けて下さいます。

旦那様方もおさまりがつかない様子なので、そのまま
いろはの精をつけるのも兼ねて、皆様のを飲ませて頂く事になりました。
一度に二本、三本、四本としゃぶりしごかせて頂いていますが、
いろはがお世話出来ない間の皆様は乳やお尻、腋や足、顔、髪を使って
精を放たれる準備をしてお下されています。

抜がりきった女陰の奥までご覧になって興奮された旦那様方は
先を絞っているのの中に剛茎を押し込もうとされますが、
余りに沢山の濃精を頂いたせいか、出産が止まりそうありません。

遅い男茎から次々にいろはの口の中に放たれる濃汁を飲み下して行く、
途中で吸い込む息を吸ってただけでも直ぐにまた孕んでしまい、そんな
気持ちにすらなっています…

最後の一人はやはり旦那様をお願いすることにした。

皆様方も了解していただき、ご覧頂いている中いろはと繋がって頂きました。
ぬらぬらとはみ出していたいろはの淫肉を旦那様の亀頭がゆづりと押し
戻し、雁の部分でやさしくいろはを撫でて下さいます。

それだけで気を失いほど快感を覚えるのですが、自然と腰と膣肉が
動いてあっという間に旦那様の精を搾り出させて頂いたようです。

いろはの中に旦那様の精が次々に流れ込んでいきます。
二人分の充足感に満たされながら、意識が遠のいて行きました…

いろはの分身がすくすくと成長するのは良いのですが、成長に必要な乳には沢山の栄養を採る必要があります。いろはの旦那様だけではやはり不足がちになってしまうので、村の皆様も手伝って下さる事になりました。



家事の最中も勿論ですが、下さる旦那様方によってはいろはが用を足してる時が好きな方もいらっしゃいます。下履きを脱いでしゃがんだ所に茎を突き出されます。

用足しは好きにながらと仰いますので、まだ柔らかさが残ってる茎を揉みつぶしつつ小用を足します。

ふしゅっ…しゅうう〜、と女陰からの逆りが始まり、続けてぶびいっ！びびいっ！と、激しい音が肛門から上がります。

逆りの湯気と混ざって匂いが立ち籠もる頃には旦那の茎はいろはの口から溢れそうな位硬く遅くなっています。

口の中の牡臭がいろはの臭いを押しつけそうになった頃、肛門を押しつけて長い繋がりかみみと搾り出されていきます。

全部出し終わり、ポトン!!と言う音を聞かれた直後、旦那様は精を放たれます。

いろはの臭いではちきれそうになった剛茎からびびびゅーと精汁が流し込まれて行きます…

家事をしている最中でもちよっと手を休めて小まめに精を補給するのを忘れません。

庭のお掃除をしていると、通りがかった旦那様が声を掛けて下さいました。三日程お溜めになった汁だそうです。

放たれる勢いは少ないのですが、どろどろとよく噛んで味わえるほどに濃厚な味でした。

あの時生まれた子もすっかり大きくなって、今は二人で旦那さまにお仕えています。
旦那さまいらはと同じように可愛がって下さって、今度は同時におなかが大きくなりました。

今度の子もみんなでもた旦那さまに可愛がって頂ければ嬉しく思います♪





成年向け同人誌

HOLON-TANK

早乙女けんまゆう所

本日
中止

…はじめまして、マスター。ご使用前に機能説明は必要でしょうか？

初期起動からやや間が空きましたが、本日からこちらのマスターにお仕える事になりました。

基本的な機能は既にオーナーズマニュアルでご承知のようですので、カスタムした部分の説明と確認だけして頂く事になります。

発汗機能が促進されて温度が上昇してきました。
スルスルになり始めた体の隅々までマスターがチェックされていきます。

味の確認もされるとの事ですので、一番汗の溜まりやすい腋からバストの裏に掛けてをお出しする事にしました。

…どうぞ、マスター。存分にご賞味下さいませ。



マスターはしばらく腋に顔をうずめて匂いを楽しまれた後に丹念に腋を味わっておいでようです。
味が無くなると乳首やおなかの方へ、その間汗が溜まるとまた腋へと往復して楽しまれていました。

乳首の方でも更にお楽しみ頂きたいのですが、納品直後なのでタンクに充填がまだされていません。

サーバ機能を充実させる為にも各部への充填を兼ねて補給をお願いします。

納品時の服を脱ぎ、まず全体プロポーションから。オーダーは基本プロポーションから全体に増量でした。
合わせてサーバ機能の増強も行われています。

また、発汗機能の強化、部分的な体毛の増量、この辺のこだわりが納品に時間がかかった理由だそうです。

…マスター、如何でしょうか？サイズや体毛の量はご希望通りでしょうか？
よろしければ使用開始のステッカーをおはがしになって下さい…

マスターと私、同時に補給も兼ねて食事の支度を開始します。
ご命令通り用意して頂いたエプロンを装備しました。本来はきちんと着衣した
方がいいのですが、充填作業にも都合がいいとの事ですので、そのまま
準備を進めます。

ご希望はカレーでしたが、圧縮モードで召し上がるのをご希望されましたので
一番大きい鍋五杯分を作って…まず私が頂きます。

二杯分を頂いた所でアナルからの挿入充填をお試しになりたいとマスターが
仰いました。

アナルからの充填は専用器具が必要ですので、自分で準備し
ご覧になって頂きます。

まず充填用のアタッチメントをアナルに挿入し、奥の挿入口に装着します。
そこでアナルから突き出したアタッチメントの逆側にホースとタンクを接続し、そこからお好みのものを
送って頂く仕組みになっております。

お尻の方が準備出来ましたので、送って頂いている間に胸の方のタンクにも充填を開始します。
こちらはもっと簡単で、充填チューブを挿して頂ければ
内部から吸い上げてタンク容量一杯まで自動充填されるようになっております。

ヴァギナの方にあるタンクも試してみたいそうですが、構造上アナルの方からの充填中は出来ません
ので、挿入口の確認だけお願いすることになりました。

陰毛が濃くてご覧になりにくいとは思いますが、髪を抜けてご覧下さい。

カレーとミルクの充填が完了しました。

ですが、圧縮モードでの完成まではもう暫く時間がかかってしまいますのでその間ミルクサーバのチェックをして頂く事にしました。

まずは重さや触感を見て頂き、続いてお飲み頂きます。

乳首を舐めて、舌で舐め回したりしゃぶったりされると、じわりとミルクがしみ出して来ます。

吸う力に合わせて乳房を揉みながら搾り出してお飲み頂きます。自動的にお出しするのも可能なのですが、こうしてお出した方が好まれるようです。



自分で搾り出す所も見たいと仰いますので、ご要望にお応えしてわかめミルクをお作りしました。

汗たっぷりの腋毛とミルクのブレンドをお楽しみにになりたいそうです。

ちょっと早めかもしれませんが、よろしいですか?と伺うと、構わないとの事でしたので急いで準備を始めます。

容器に跨り、先ず挿入時に混じった空気やガスを噴出します。



そろそろ出来たかな?

マスターは私にお尻を突き出すように命令すると、アナルの周りを拡げました。ひんやりとした金属の感触と指の感触がお尻を探っています。

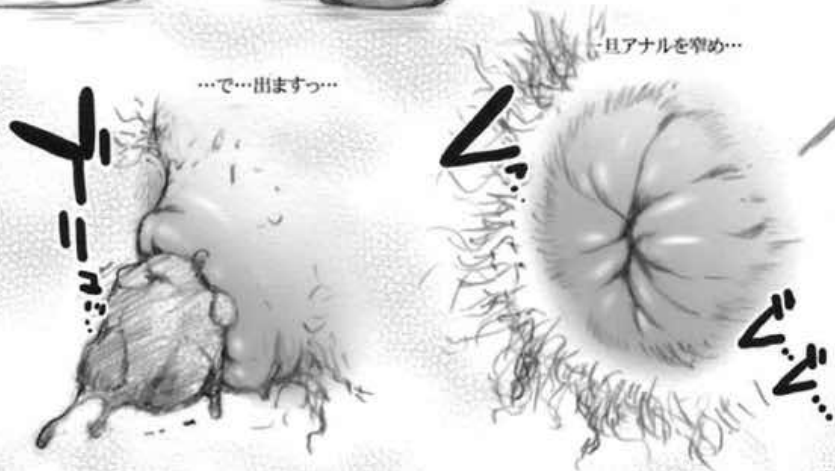
すっかりアナルを刺きだしにすると匂いがかいで確認されました。

もう…少しですから…お待ちになって下さい、マスター。

ヴァギナの方の挿入口をもう一度弄ろうとされた時、圧縮完了のサインが出ました。

一旦アナルを窄め…

…で…出ますっ…



ミリッ…ミリミリッ…

アナルが痒がって、極太のが出て来るのが感じられます。

こちらからはよく見えないのでマスターに報告して頂く感想で分析するしかないので、太さも量も申し分無いそうです。

カ…カ…カ…

カ…カ…カ…

カ…カ…カ…

お墨付きを頂いた後は安心して次々と容器を満たして行きました。

こぼす分が多くなってしまったため、目視出来る姿勢に変えて盛りを続けました。

まだまだ余裕がありますが、一通りご覧頂いたのでお食べ頂く事にします。



先ずはお味見です。匂い、熱さのチェックを入念に行い...

味を見ます。

そのまま召し上がりたいとの事ですので、口づけをしながら食べて頂きました。

お味の方は満足でしたがやはり量が多かったようです。

もう一度私が頂戴して後でもい一度お出しする事にしました。次は圧縮モードでなくても構わないし、直接アナルから召し上がりたいそうです。

マスターのご所望なら構わないのですが...

お味の方は満足でしたが、やはり量が多かったようです。
もう一度私が頂戴して後でもい一度お出しする事にしました。
次は圧縮モードでなくても構わないし、直接アナルから召し上がりたい
そうです。

マスターのご所望なら構わないのですが…

食事後身支度を調べていたのですが、マスターが小用と仰るのでヴァギナの
機能を試して頂く事にしました。

…はい…そのまま…ペニスを私のヴァギナにお当て下さい。
はい…出来れば…膣口付近に…はい…

説明の間に急速モードで潤滑液をヴァギナに放出します。

こちら側の内部タンクはプラントで分解し、再利用、もしくは排出する機能
があるのです。

…それではペニスをヴァギナの内部に吸引しますので、合わせて二～三步
前にお進み下さい。…では…いきますっ…

ふしゅっ!しゅーつと、アナルから圧縮ガスが出るのと同時に
ちゅるんつとペニスが収納されます。

マスターも上手くシンクロしてくれました。
その後抜けない程度に膣壁でペニスを固定します。

中で小用を始めて頂きます。

が、慣れない状態ですので、上手く行かないようです。
私も初めてでデフォルトの膣設定しかありませんので、マスターに様子を聞きながら膣圧を調整して行きます。

内部のヒダを動かしてペニスを刺激して行くと、そのまま勃起されてしまい性交状態になってしまったようです。

そのまま大きくなったペニスで膣壁を抉られ、性感センサーを刺激されます。



何度目かの射精の後、喉が潤いと仰られましたのでミルクを差し上げます。
同時に私の中でそのまま小用を始めて頂きました。
タンクの切り替えがまだでしたので、ちょっと困りましたが、こちらの大体の機能は伝わったと思います。

残りの機能はまた次回にご説明させていただきます…。

ホロンの出前サーバー（カレー編）

海水浴にお出かけになるマスターご一行の為にランチ用のカレーをタンク一杯に詰めて同行させて頂く事になりました。

今回は人数が多いようなので、流石に全部は入りきれません。残りは失礼ながら保温バッグに詰めて運びます。

お腹を揺らしながら透明の特大保温バッグを運ぶ姿は珍しいのか、ビーチの皆さんが見て行かれます。

マスター達がビーチに出かけている間にランチの準備を整え、皆さん揃った所で盛りつけを開始します。



ショーツとスカートを探り、お尻を突き出し合図をして頂きます。お尻を軽く叩いて頂く合図です。

お一人目の平手がお尻の肉を打ちました。皆さんの視線が集まったアナルが盛り上がり、髪と陰毛を抜けて熟成された固まりが顔を覗かせます。

ムリッ……ムリリッ……と、程よい固さの固まりがとろろを巻いてほぼ理想的な盛りつけが出来たようです。

お客様の反応も満足そう。

途中タンクが空になったので保温バッグに入れた分に切り替えようとしたのですが、やはりアナルから出して欲しいとの事で、急遽対応する事になりました。

急いで飲み込み、急いで排出したせいで空気がかなり混ざり、プブッとかなり飛び散らせてしまいました。後半は綺麗な盛りつけが出来ませんでしたが、概ね満足は頂けたようです。

空になったタンクは帰宅前までに別の用件で満タンにさせて頂きました。



ホロンの出前サーバー（ピザ編）

届け物のついでにマスターの言いつけで宅配ピザを取りに行ってきた。

ただメニューは特別のをご望らしく、先ず出発前にヴァギナの奥にチーズをたっぷり詰め込みます。

臭いも固さも程よくとろける様に、調整してありますので、奥から震の隅々まですり込むように入れていきます。

プレーンの種類を購入した後は股間に密着させてショーツで押さえ、出来るだけ刺がれないように気をつけます。

言いつけの用をこなしながら熟成と熱を加え程よくなった頃にお届けに上がります。

マスターにショーツを解いて頂きます。

更に台を剥がして頂くと、粘ったチーズが陰毛と絡んで糸を引き、密封されていた強烈なチーズの臭いが湯気と共に立ちこめます。

ヴァギナの奥で熟成させたチーズを足して、ご希望のメニューが完成しました。

製作まで手間が掛かる上に、膣内のメンテナンスにも時間がかかるのであまり頻繁には対応出来ませんが、それだけに今回のメニューは喜んで頂けたようです。

MESU DARU
牝 樽

早稲大けいさくゆう所 発行

2008. 12. 30 C75 初版

ねこのしっぽ 甲刷

mail:mondonosuke@saotome.mail-box.ne.jp

web:http://saotome.sblo.jp/

糞 糞

MESU-DARU.



いろは臭
X
HOLON-TANK

早乙女けいすけ所